

★流星課 METEORS (140) 課長 小嶺孝二郎 (Koziro Komaki, President)

九月に入ると流星数はづつと減少するが、一年の平均数よりは多い。顯著な流星群はないが、十月とも合せて、次のものの出現が豫想される。September and October Meteors:

期 間	極 大	輻 射 點		附近の星	備 考
		α	β		
八月30日→九月2日	1 日	86°	+41°	馭 者 τ	速, 1911 II
九月中 一 下 旬		13	+ 6	魚 δ	緩
21日頃		31	+19	羊 α	緩
27日頃		4	+28	アンドロメダ α	緩
下 旬		23	0	鯨	
十月 8日頃		77	+31	牛 β	緩
9日頃		263	+54	龍 ν	ジャコビ彗星
15日~25日		92	+15	オリオン ϵ	速, 痕
20日~25日		98	+14	双 子 γ	速, 痕
十月 —— 十一月		43	+22	羊 41	緩, 輝

上記の中、最も顯著なものは十月下旬のオリオン、双子より放射する流星群であるが、本年は21日に月が下弦となるので、極大期の22~23日頃は月の妨害は少い。會員各位の観測を切望する。

編 輯 室 よ り

前號は、印刷に非常に時日を要し、遂に發行日の變更を行ふことにもなつたので、讀者諸氏に大變御心配をかけたが、しかし、あの號の出来ばえを見て、喜んで下さつた方々が多かつたので、ホツとした。しかし、發行日は今尙延びたまゝになつてゐるので、何とか本號の印刷を一日でも早く終りたいと思ひ、心ならずも机上に山積してゐる原稿を暫く抑へて、こんどは本文24頁、附録8頁の形で出すことにした。次號や次々號に出すべき文の中には、吉岡修一郎氏の占星術、津田雅之氏の陣鐘、齋藤馨兒氏の流星群、渡邊敏夫氏の日本幕末時代のプラネタリウム、伊達山本兩氏の太陽觀測法論議、森岡孝雄氏の日時計、主幹の國民天文教程、平山窪川木村三氏の小傳等がある。大に期待して頂きたい。

木村榮博士が逝去された。今年は我が國天文學界に於いて多くの碩學を失つたことを悲しむ。木村博士のことは本誌にも度々書いたが、近號に又追悼文を載せなければならぬ。(1943~9~26)